

# 明日香をきぐる

## 塚御門の由来について

今回は、越塚御門古墳が所在する小字名についてその由来を考えてみたいと思います。

越塚御門古墳は奈良県高市郡明日香村大字越小字塚御門一九四番地に所在しています。越塚御門古墳についてはこれまで文献史料をはじめ、地元にも伝承が残っており、まったく知られていなかった古墳です。

よって、古墳の名称については大字と小字名をとって越塚御門古墳と新たに命名しました。そこで、古墳名の由来となった小字名について考えてみたいと思います。

### 【小字名の由来】

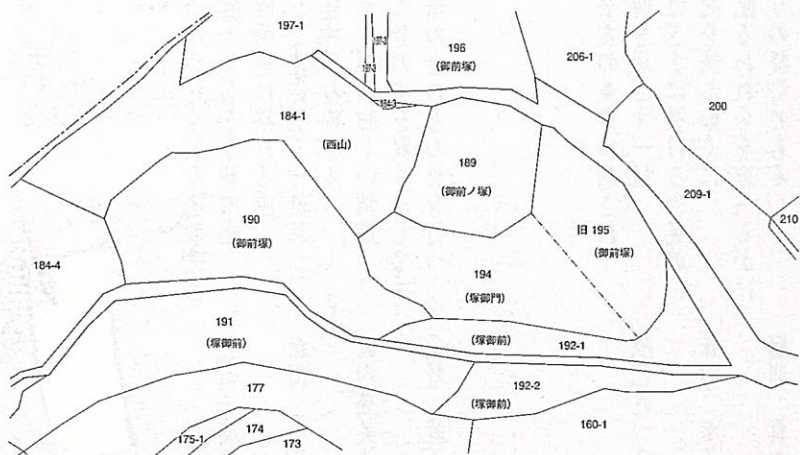
牽牛子塚古墳と越塚御門古墳が所在する大字「越(コシ)」は『日本書紀』などに記されている「小市(オチ)」が転訛したものと考えられています。そして、牽牛子塚古墳の

ある一八九番地の小字については「御前ノ塚(オマエノヅカ)」であり、八角形の犬走り状の石敷きを検出した一八四一番地は「西山(ニシヤマ)」と呼ばれています。更に周辺をみると古墳に隣接する一九〇番地は「御前塚(ゴゼンヅカ)」、一九一番地は「塚御前(ツカゴマエ)」、旧一九五番地(一九四番地に合筆)は「御前塚(ゴゼンヅカ)」、一九六番地は「御前塚(ゴゼンヅカ)」となっています。さらに、一九二一と一九二二番地については「塚御前(ツカゴマエ)」であることから、牽牛子塚古墳周辺には「御前塚」や「塚御前」といった小字名が多く存在していることがわかります。その中にあって一九四番地だけが「塚御門

(ツカゴモン)」と他の小字名と異なっている点は注目されます。これは一八五六(安政三)年の『松の落ち葉』の中で牽牛子塚古墳を指すとみられる「御前塚」の名はあるものの、「塚御門」については記されておらず、また他の古図にもみられないことから、現段階では明治時代の史料までしか遡って確認することができません。次に「塚御門」の由来については判然としないものの「塚」と「御門」に分けて考えると「塚」は牽牛子塚古墳を、「御門(ゴモン)」は入口・玄関を指すと考えられます。これは越塚御門古墳が削り貫き式横口式石槨で、ある時期盗掘などで開口した際、開口部が牽牛子塚古墳の入口や門のように見えたことから「塚御門(ツカゴモン)」と呼称されたと考えられます。また、古代の史料には「御門(ゴモン)」を「御門(ミカド)」と呼ぶ例も多く、「御門(ミカド)」は天皇を尊称する言葉として用いられることから、仮に塚御門を「ツカミカド」と呼称した場合、牽牛子塚古墳はその「オンマエ(小字御前ノ塚)つまり「御門(ミカド)の御前(オマエオンマエ)」ということになります。しかしこの場合、

立地から考えると北側が「御前(オンマエ)」で、南側が「ミカド」となることから「天子南面す」にそぐわないこととなります。これは後世において地名考証の段階で変化したものか現時点では明らかになることはできませんが、いずれにしても牽牛子塚古墳とその周辺部に「御前塚」「塚御前」といった天皇を含めた貴人の敬称となる「御前」が使われていることから、

のではないのでしょうか。その中であって丘陵側の一九四番地だけが「塚御門」の名称が残されていることはやはり、牽牛子塚古墳の「前」を意図した地名であったものと考えられます。これは『日本書紀』の天智六(六六七)年二月の記事にある小市岡上陵の前にある大田皇女の墓との関連が注目されます。



牽牛子塚古墳・塚御門古墳 周辺地籍図

シリーズ